

Noism2 定期公演

日程 ■ 2016年12月16日(金)～18日(日) ※全4回公演

会場 ■ りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館 <スタジオB>



『火の鳥』(2012年) 演出振付: 金森穰



『SAUDADE』(2015年) 演出振付: 山田勇氣

Photo: Isamu Murai

いま、舞踊になにができるか 若き舞踊家たちの新たな挑戦が始まる

金森穰が Noism2 のために創作し、約 5 年ぶりに再演を果たす『火の鳥』と
専属振付家・山田勇氣による新作を同時上演！

りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館の専属舞踊団である Noism1 の付属研修生カンパニーとして 2009 年に設立された Noism2。9 月よりスタートした今シーズンは 18～22 歳までの計 8 名の若手舞踊家が在籍し、プロの舞踊家を目指して日々鍛錬を積んでいます。

毎年開催する定期公演は、Noism2 にとって新シーズン序盤の大きな山場となる公演であると共に、さまざまな振付家と出会い、彼らの作品に身を投じることで、舞踊家としてのポキャブラリーを育む機会でもあります。

8 回目を迎える今回は、Noism 芸術監督・金森穰の『火の鳥』と、Noism2 専属振付家である山田勇氣の新作『ÉTUDE』の 2 作品を上演します。『火の鳥』は金森が Noism2 のために 2011 年に振り付け、Noism2 初のレパートリー作品として各地で上演し好評を得た作品で、今回は新たなメンバーで約 5 年ぶりの再演です。

そして、専属振付家・山田勇氣による新作『ÉTUDE』。「エチュード＝練習曲」というタイトルのとおり、様々な振付のバリエーション＝ÉTUDE を組み合わせた作品です。「舞踊とは、舞踊家とは、身体とは……」振付家であり、舞踊家でもある山田の問いと挑戦が込められたひとつひとつの「ÉTUDE」に、舞踊家たちがその身をもって向き合います。

「舞踊」を通して、次代を担う若き舞踊家たちが何を獲得し、どのような未来へ進むのか……。Noism2 定期公演でしか見ることのできない、挑戦と成長の過程にどうぞ注目ください。

公演に関するお問合せ

りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 Noism 上杉・堀川

新潟市中央区一番堀通町 3-2

Tel : 025-224-7000 Fax : 025-224-5626 Mail : info-noism@ryutopia.or.jp

『火の鳥』

演出振付：金森穰

《意識の視線、あるいは白昼夢》

創作過程に於いて表現の矛先を意識する事。誰に向けての、何に対しての、叫びであり、愛であり、願いであり、挑戦であるのか。それは私が18歳で創作を始めた頃から当然の様に意識してきた事です。言い換えるならばその視線の先にのみ、表現すべきものがあるのであり、必要が発明の母であるように、視線は創造の父であると思っております。しかし私は今まで子供達を意識して作品を創った事はありませんでした。それは私自身が子供であるが故に見落としていたに過ぎないのかもしれませんが、私の頭の中にある、劇場と呼ばれる創造の庭に、なぜか子供達の姿が見えなかったのです。しかし2009年若き舞踊家達による Noism 2 を起ち上げ、学校への出前公演を構想した時、水銀灯に照らされた体育館に集まり、不安と共に目を輝かせている子供達の姿が見えました。そしていつしかその子供達が、新潟の創造の庭である、りゅーとぴあへと集まってくる白昼夢を見たのです。

2012年定期公演パンフレットより



『火の鳥』初演（2011年）より

Noism2 定期公演『火の鳥』（2012年）より
Photo : Isamu Murai

『ÉTUDE』

演出振付：山田勇氣

note.1

「動いてはならない」

これは状態に対する警告、「止まれ」ではない。

「動き」とは、静止から静止への移行である、ということである。

静止から静止への間は、理論的には極小まで小さくすることが出来るので、静止の連続が「動き」の本質であると考える。

ではなぜ動いて見えるのか、

note.2

りんごがなっている、りんごが木から落ちる、りんごが着地する、星が瞬く。

ここに閃めいた彫刻家 N は、偉大なる傀儡子人形「万有引力」を彫り出した。

静止から静止へ、動かされるリング。(この不思議)

「ありてあるリング」は時代を経て、歪み撓み腐り重なり抽出され、ゆがみと曖昧の法則によって、鏡の中でサイコロ状にカットされる。

(そのサイコロを振るのは誰か?)

一方、禁断の果実は人間に食べられていた。

知恵の樹の実の排泄物は、身体であった。

私たちは豊穡な混沌を切り刻んで、言葉の世界を築き上げてきた。

現実と非現実、日常と非日常の境は曖昧になり、純粋な驚きや喜びは、わかりやすいストーリーに隠蔽される。

今、舞踊になにができるか。

感情の源泉たる混沌を体現し、日常の価値観を超えた感染を引き起こし、損得勘定のない贈与への動機付けを回復させること。

およそ舞踊とは「有り難い」もの。

昨今、身体不在、舞踊は行方不明だ。もう死んでいるのかもしれない。

しかし、死亡通告は死亡そのものを意味しない。

虚実の皮膜が舞台にあるというなら、現実と非現実、日常と非日常、生と死を隔てるものの中を潜って、舞踊を、身体を探しに行こうと思う。

舞踊のソウサク。きっと身体は、舞台の上には存在しない。



Noism2 定期公演より『DOVE』(2010年)



Noism2 定期公演より『Painted Desert』再演 (2015年)



©Isamu Murai

プロフィール

演出振付



Photo : Kishin Shinoyama

金森 穰 Jo KANAMORI

演出振付家、舞踊家。りゅうとびあ 新潟市民芸術文化会館舞踊部門芸術監督、Noism 芸術監督。17歳で単身渡欧、モーリス・ベジャール等に師事。NDT2 在籍中に20歳で演出振付家デビュー。10年間欧州の舞踊団で舞踊家・演出振付家として活躍後帰国。04年4月、日本初の劇場専属舞踊団 Noism を立ち上げる。14年より新潟市文化創造アドバイザーに就任。平成19年度芸術選奨文部科学大臣賞、平成20年度新潟日報文化賞ほか受賞歴多数。
www.jokanamori.com



Photo : Noriki Matsuzaki

山田 勇気 Yuki YAMADA

舞踊家、振付家。Noism2 専属振付家兼リハーサル監督。北海道生まれ。北海道教育大学函館校にて清水フミトに出会いダンスをはじめ。2005年 Noism に入団。退団後、武道家日野晃に学ぶ。13年より Noism2 専属振付家兼リハーサル監督に就任。プロを目指す若手舞踊家を率い、新作を発表している。近年は新潟市内の小中学生や舞踊未経験者に向けたワークショップ等のアウトリーチ活動も積極的に行っている。

出演

Noism2 (ノイズム ツー)

Noism の研修生カンパニー。プロフェッショナルカンパニーである Noism1 の付属集団として09年9月設立。プロをめざす若手の舞踊家が所属し、毎年春・夏には単独公演を行うほか、Noism1 との合同公演として劇的舞踊『ホフマン物語』や『中国の不思議な役人』、劇的舞踊『カルメン』、『ラ・バヤデーラー 幻の国』等に出演。13年のシーズンからは専属振付家兼リハーサル監督として山田勇気を迎え、県内ツアーや新潟市内でのイベント等にも出演している。

Photo : Noiriki Matsuzaki



鳥羽 絢美

西岡 ひなの

秋山 沙和

西澤 真耶

片山 夏波

門山 楓

牧野 彩季

三好 彩音

公演概要

Noism2 定期公演

『火の鳥』(再演)

演出振付：金森穰 (Noism 芸術監督)

『ÉTUDE』(新作)

演出振付：山田勇氣 (Noism2 専属振付家兼リハーサル監督)

出演：Noism2

**日時：2016年12月16日(金) 19:00、17日(土) 13:30★/17:00、
18日(日) 13:30/17:00 ★追加公演 ※全5回公演**

* 終演後に芸術監督と専属振付家によるアフタートークを開催します。※17日(土)・18日(日) 13:30の回は除く。

会場：りゅーとぴあ 新潟市民文化会館<スタジオB>

入場料：1,500円(税込・全席自由)

チケット発売日：N-PAC mate(友の会)10月13日(木) / 一般10月15日(土)

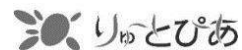
【お問合せ・チケット取扱い】

- ▶ りゅーとぴあ(窓口・チケット・オンライン)
チケット専用ダイヤル 025-224-5521(11~19時/休館日除く)
オンライン・チケット <http://www.ticket.ne.jp/ryutopiaticket/>
- ▶ イープラス <http://eplus.jp/>(PC・MB共通)

【諸注意事項】

- * 未就学児の入場はご遠慮いただいております。
- * 開場は開演の30分前を予定しています。
- * 開演時間を過ぎますと、演出上の都合によりご入場を制限させていただきます。

主催：公益財団法人 新潟市芸術文化振興財団 製作：りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館



平成28年度文化庁劇場・音楽堂等活性化事業

Noism オフィシャルサイト www.noism.jp



Noism



@NoismPR

公演に関するお問合せ

りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 Noism 上杉・堀川

〒951-8132 新潟市中央区一番堀通町3-2

Tel : 025-224-7000 Fax : 025-224-5626